

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名 一般国道42号 <small>たなべ</small> 田辺バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局
起終点 自：和歌山県西牟婁郡上富田町 峠 <small>にしむる かみとんだ とうげ</small> 至：和歌山県田辺市秋津町青木 <small>たなべ あきづちょうあおき</small>	延長 5.8 km	
事業概要 一般国道42号は静岡県浜松市から和歌山県和歌山市に至る約470kmの主要幹線道路である。 田辺バイパスは42号の和歌山県西牟婁郡上富田町から同県田辺市にかけての延長5.8kmの現道拡幅及びバイパス事業で、一般国道42号田辺市街地の混雑の緩和、交通のボトルネックとなっている田鶴トンネルの解消、交通安全の確保を主目的に計画された道路です。		
S47年度事業化	S48年度都市計画決定 (H元年度変更)	S50年度用地着手
全体事業費 約430億円		事業進捗率 89%
計画交通量 29,500台/日		供用済延長 4.8km
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.9 (残事業) 1.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 140/695億円 (事業費：134/673億円) 維持管理費：6/22億円
		総便益 (残事業)/(事業全体) 218/1,310億円 (走行時間短縮便益：214/1,292億円) 走行費用減少便益：3/13億円 交通事故減少便益：1/5億円
基準年 平成15年		
事業の効果等 ・物流効率化への支援（田鶴トンネル開削により、ISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間の解消） ・災害への備え（和歌山県の42号全線は県地域防災計画の第一次緊急輸送路として位置づけられている。） 他10項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 田辺市をはじめとする2市12町2村で「国道42号（田辺～新宮）改良促進協議会」を平成3年に設立。以降毎年同協議会より近畿地方整備局に田辺バイパスの整備促進を要望している。 その他和歌山県長期総合計画「わかやま21世紀計画」に位置づけられる等、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 バイパス沿線の田辺市の人口は横ばいであるが、上富田町は田辺市のベッドタウンとして成長している。 人口が横ばいの田辺市でも自動車保有台数は年々伸びてきており、田辺バイパスの4車供用区間の交通混雑は解消されたが、残事業区間では混雑度は高くなっている。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成11年度までにバイパス区間4.4km（うち4.2kmは4車供用済）を供用している。 残事業区間の主要渋滞ポイントである田鶴交差点の立体交差点については今年度（H15）供用する予定である。残りの田鶴トンネルの開削等現道拡幅区間については早期全線供用に向け事業を推進していく。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 公団混雑地域があったため用地買収が難航していたが、混雑地域の地域の地籍調査がほぼ完了したため用地買収を進め早期全線供用に向け推進していく。		
施設の構造や工法の変更等 残事業の施工にあたっては、建設発生土の有効利用や新技術の活用等によりコスト縮減に努めながら事業を進める。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる		

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものとす。